

令和7年度 府立東舞鶴高等学校 浮島分校 学校経営計画（スクールのマネジメントプラン）（実施段階）

スクールのミッション	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>一人ひとりに応じた教育活動を行う普通科を設置する夜間定時制課程の高校として、学習意欲の向上や基礎学力の充実を図り、社会性を身に付けながら能力を最大限に伸ばして進路を保障し、社会に貢献できる自立した人材を育成する。</p>	<p>（成果）</p> <p>1 「総合的な探究の時間」では、少人数班での探究活動を実施し、主体的な学習活動と共に成果発表や質疑応答のスキルを高めることができた。</p>	<p>重点1 学びに向かう力の育成と、基礎・基本を重視した授業の推進</p> <p>(1) 学習者目線を重視した学びの個別最適化と基礎学力の充実</p> <p>(2) 体験的な学習や探究的な学習等の実施・充実</p>
<p>スクールのポリシー</p>		
<p>1 育成を目指す資質能力に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が、社会の一員として自立し働くための基礎的な知識・技能や素養を身に付けられるようにします。</li> <li>・生徒が、自己理解を深め、自ら考え行動したり挑戦したりする姿勢を身に付けられるようにします。</li> <li>・生徒が、多様な個性や思いを持つ人と協力する態度やコミュニケーション力を身に付けられるようにします。</li> </ul> <p>2 教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が自分のできることを見つけ、各自のペースで前向きに過ごす高校生活を創り出すように支援します。</li> <li>・学びのリスタートや学び直しを重視し、生徒が基礎・基本を確実に習得できる授業を実施します。</li> <li>・体験的、協働的で生活力につながる学びを推進します。</li> <li>・学校全体で協力し合い、生徒が自分たちで創り上げる特別活動を実施します。</li> <li>・生徒が自らの明るい未来を信じ、主体的に進路を切り開くキャリア教育を推進します。</li> </ul> <p>3 入学者の受入れに関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自が持つ力を信じ、あきらめず、投げ出さず、学び続けようとする人を待っています。</li> <li>・自分のペースを大切にしながらも、学校に通うことが楽しいと思える人を待っています。</li> <li>・多様性を受け入れ、豊かな人間関係を作り、自分も、友人や家族も大切にしようとする人を待っています。</li> </ul>	<p>2 生徒の基礎学力を充実させるために、課外時間の補充及び長期休業期間を活用した勉強会を実施し、学力不振による単位不認定者を0名にすることができた。</p> <p>3 学校行事等において、生徒会を中心とした事前・事後のアンケートや他学年との交流を実施し、生徒が主体的に活動する学校行事にすることができた。</p> <p>（課題）</p> <p>1 更なる基礎学力補充の継続と充実を図ると共に、大学進学を希望する生徒への発展的な学習指導を実施する必要がある。</p> <p>2 様々な課題を有する生徒が希望する進路を実現できるよう、生徒一人ひとりの状況を把握し、個に応じた進路指導を実施する必要がある。</p> <p>3 ICTを活用するための研修を充実させることにより、活用方法を開拓し、校務や教科指導等で更に実践する必要がある。</p>	<p>重点2 生徒一人ひとりのニーズを踏まえた教育活動の推進</p> <p>(1) 生徒一人ひとりのニーズに応じた進路指導とキャリア教育の開発・充実</p> <p>(2) 社会的自立に寄与する健康・安全教育の実施・充実</p> <p>重点3 教育DXの推進</p> <p>(1) ICTを活用した学校運営の改善及び持続可能な働き方の改革</p> <p>(2) BYOD時代にふさわしい教職員・生徒の資質の向上及びそのための環境整備</p> <p>重点4 コミュニケーションを大切にした生徒指導の推進</p> <p>(1) 生徒の内面や生活状況等の深い理解・把握に裏付けられた指導・支援の充実</p> <p>(2) 生徒の主体性を育てる取組の開発・充実</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
重点1 学びに向かう力の育成と、基礎・基本を重視した授業の推進	(1) 学習者目線を重視した学びの個別最適化と基礎学力の充実	生徒個々の学力に応じた学習指導を目指し、学習に向かう基盤を育むため、学習課題設定及び学力補充等について綿密に計画し実施する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力不振生徒へは補充を行い、基礎学力の低い生徒には、夏休みや考查前を活用した勉強会を行った。また、進学を目指している生徒には、授業前後の時間を活用し、進路実現ができた。</li> <li>・課題学習では、選択したテーマ設定に応じて班ごとに探究を行っており、調べ学習だけでなく、課題を分析し独自の解決案を提言し、発表することができた。</li> </ul>
		授業規律を確保し、基本的学習習慣を定着させるために、授業における生徒の学習行動（聴く、書く、考える等）を明確化した授業を実施する。	B		
		生徒が達成感を得られる学習を実現させるために、定期考査等の結果を基に、生徒の学力に応じた学習課題設定による授業を実施する。	B		
	(2) 体験的な学習や探究的な学習等の実施・充実	自主的な学びにつながる授業を目指して、自らテーマを設定し、課題を見つけて解決する機会を増やした授業を実施する。	B	B	
基本的な探究方法を生徒が身に付けるだけでなく、相手に伝えることまで想定して、探究を深めるため、充実した探究の時間を実施する。		A			
重点2 生徒一人ひとりのニーズを踏まえた教育活動の推進	(1) 生徒一人ひとりのニーズに応じた進路指導とキャリア教育の開発・充実	段階的に生徒の進路意識を高めるために、計画的な進路指導ホームルームを実施する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HR計画に則り進路指導を実施しているが、HRに参加せず進路指導を受けない生徒のキャリアガイダンスができていない。</li> <li>・過去のデータがあまりない中であるが、積極的に情報を集め生徒の進路希望実現に活かした。</li> <li>・進路実現に向けての取組を行っているが、コミュニケーション能力の弱さがネックになる事例が見受けられた。</li> <li>・ホームルームの時間や総合的な探究の時間等を活用し、継続的にSSTを実施することができた。今後は生徒に身に付けさせたい力を意識して、より適切な内容を選択できるようにする。</li> <li>・保健だよりや掲示物を通して保健情報の発信をした。アンケート調査を実施することができた。その結果を冬休み前に提示し、生活習慣の改善を促した。</li> </ul>
		就職・進学両面の情報収集に努め、個々の生徒に応じたきめ細かい進路指導を実施する。	B		
		4年生に対して、個々の生徒の希望に応じた就職対策及び進学対策を実施し、100%の希望進路実現を目指す。	A		
	(2) 社会的自立に寄与する健康・安全教育の実施・充実	社会的自立を促すために、ソーシャルスキルトレーニング（SST）をホームルームの時間を中心に、クラスや個人の実態に応じた内容で計画性を持って実施する。	B	B	
健康に対する意識を高めるため、アンケートにより生活習慣に関する調査を行い、保健指導を通して、生徒に還元する。保健だより等を活用し、日頃から生徒に健康安全に関する情報を周知する。		B			

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
重点3 教育DXの 推進	(1) ICTを活用した学校運営の改善及び持続可能な働き方の改革	出欠席状況に関して、指導・支援を要する生徒に即応して対応できるよう、校務システム及び他のICTを活用した管理を実施する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非認知能力計測アプリ(AiGROW)1回目実施時の課題であった時間の使い方を見直しができたが、結果データの使用方法は課題である。</li> <li>・ICT活用方法の交流を実施し、エバンジェリスト研修の内容や、使用しているアプリ等の共有を行った。</li> <li>・新しいアプリやよりよい活用方法については課題が残ったが、生徒が毎日ICT端末を用意できる環境に改善したことで、日常的に端末を活用できている。</li> <li>・アプリの有効活用のための使用に関する規定を検討できていない。</li> </ul>
		非認知能力計測アプリ(AiGROW)や生成AIアプリ(ChatGPT)等、学習や学校運営に役立つアプリを積極的に活用する。	B		
	(2) BYOD時代にふさわしい教職員・生徒の資質の向上及びそのための環境整備	<p>個々のICT活用スキルを向上させるため、授業におけるICT活用状況や課題について確認するための情報交換会や意見交流会を実施する。</p> <p>生徒が日常的にICTを活用できるよう、授業やホームルームにおける様々な用途でTeams活用を標準化する。</p> <p>アプリ等がより有効に活用できるよう、ICT使用に関する規定を検討の上、改善する。</p>	B	B	
重点4 コミュニケーションを大切にした生徒指導の推進	(1) 生徒の内面や生活状況等の深い理解・把握に裏付けられた指導・支援の充実	生徒一人ひとりの状況や個別の指導計画について全教職員が共通理解を図り、組織的、計画的な指導及び支援を実施する。 SSW(スクールソーシャルワーカー)やTSC(トータルサポートセンター)への相談等、外部機関とも連携を図る。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画については、計画通り実施できている。</li> <li>・特別支援のさまざまな研修に参加した。SSW、聖母の小さな学校、ユースアシスト等とも相談・連携をとることができた。</li> <li>・生徒会としての活動の場は行事の司会進行や、給食のメニュー決めにとどまっている。</li> <li>・両丹総体の全員参加や入賞が果たせている。また、学年を越えた総体練習などもできた。</li> <li>・文化祭では有志での舞台発表をするなど、生徒の主体性を大切にできた。</li> <li>・遠足は新たな行き先として奈良方面を計画し、実施できた。</li> </ul>
		あいさつや言葉遣い等、社会人としての基本的なマナーを身に付けるため、ソーシャルスキルトレーニングと結びつけた生徒指導を実施する。	B		
	(2) 生徒の主体性を育てる取組の開発・充実	<p>生徒会としての活動の場を広げ、生徒会活動の活性化を図る。</p> <p>両丹総体全員参加の継続実施や、充実した遠足の実施を通じて、生徒の課外活動への関心・意欲を高める。</p> <p>生徒が主体的に活動する学校行事とするため、生徒会を中心とした、事前・事後アンケートや他学年との交流を実施する。</p>	B	B	

<p><b>学校関係者 評価委員会 による評価</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な条件をもつ生徒が、目標をもって進路を決定している。様々な取組により生徒が力をつけていると思う。</li> <li>○コミュニケーションを大切にした生徒指導の推進が良い結果につながっていると思う。</li> <li>○様々な取組による成果が見えるようにしていけば、学校としての評価も上がるのではないかな。</li> <li>○多様な生徒に対応できる学校になることは良いことであると思う。</li> <li>○一人一人のニーズに応じたキャリア教育、対話によって、夢を持たせる、可能性を見つけ出すことを培ってほしい。</li> <li>○進路決定状況等を広報することで、中学生が自分を投影できる情報を得ることになり、生徒募集にもつながると思う。</li> <li>○一人一人と向き合って、一人でも多く進級、卒業することが、子どもの未来につながっていくことだと思う。</li> <li>○今後も様々な厳しい条件をもつ生徒が入学してくると思うので、浮島分校の役割は重要になってくると思う。</li> <li>○学校全体の活動を見て、それぞれ目標を達成していると思う。</li> <li>○資格取得等の取組を学校からアプローチするのもよいのではないかな。</li> <li>○ICT活用が進んでいることは大変望ましい。</li> </ul>
<p><b>次年度に 向けた改善の 方向性</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的には令和7年度の学校経営計画を基礎とし、各教育活動において前年度以上の成果があげられるよう具体的方策を検討する。</li> <li>○「体験的な学習・探究的な学習」を更に進めるため、「総合的な探究の時間」を中心とした探究的な教育活動計画を検討する。</li> <li>○良好な対人関係を構築する能力が身につくよう、生徒会活動やソーシャルスキルトレーニング等を有効に活用した教育計画を検討する。</li> <li>○学校ホームページを中心とした広報活動が継続して実施できるよう、組織的な広報推進計画を検討する。</li> <li>○ICTを教育活動に更に活用できるよう、教務部及びICT教育推進会議を中心に確実に実行な学校DX化推進計画を検討する。</li> <li>○在籍する生徒の実態を正確に把握し、生徒の指導・支援に関する組織的活動計画を検討する。</li> </ul>